

尾瀬

第 9 号

尾瀬の自然を守る会

闘う相手は誰だ！

シーズン中に国鉄尾瀬号や観光団体旅行バスで入山する人達は、尾瀬の玄関口である戸倉を、睡眠中に通り過ぎる。しかも国道120号線沿線の村民に騒音とほこりをまきちらし、都会人のエゴを押しつける。自然を愛し保護しようとする者は、村民の暮らしに充分の思いやりを持たねばならない。せめて都會の人ができる事といえば、尾瀬号や夜行バスを利用しないことから始まるのではないだろうか。沼田駅頭に深夜降りる人々に、又東京からの夜行直行バスを利用する人々に、「今、あなたは村民の生活と尾瀬の自然を破壊しているのだ。」といいたい。早足で通り過ぎる尾瀬はあなた達の自然ではない。

シーズン中、戸倉の民宿はガラガラである。学生の合宿などが利用する程度である。ならば何故そうなったのか。夜行バスの素通りを何故認めているのか。過疎の村が再建できるのはこの夜行バスを止めることではないのか。夜間山奥への入車禁止をしなければならない。

5月9日の朝刊に、大阪府は水源を確保する見返りに、和歌山県との道路を整備するという。群馬県は、水と道路とを交換するのであろうか？ 尾瀬の水についてこの無謀な論理が通用したら、真に群馬県当局は自然破壊を認めたことになる。又それに賛同し協力した者は、自らの生活を破壊した者である。

私は、この巻頭言が、観光業者（特に大勢を募って夜行バスで押しかける業者）がいう「あなたにソッとおしえてあげたい…」「甘糖言”ではなく、国鉄尾瀬号を始め、夜行バス、団体バスで大勢の入山を認め続けている環境庁など関係当局への“官闇言”になる事を禁じ得ない。水と道路を交換するのも“官”であり、大勢の入山を許すのも“官”であるならば、木道を敷いているから保護していると平然というのも“官”である。一方で大きな破壊をし、他方で小さな保護をすることがたして「自然保护」であるというなら、尾瀬憲章などまやかしの放言に過ぎない。

昭和51年度総会の結果について

さる4月16日、守る会の総会が豊島区民センターで開催された。参会者は少なかったが、会計報告、役員改選、スライド映写などを混じえて無事終了した。

会計報告は、後に示したとおりであるが、役員は次のメンバーで当分の間、会の運営にあたることとなった。役員の名称はいろいろ論議があったが、幹事あるいは世話人という程度のニュアンスで進めることとなった。

代表幹事：岸 好人

書記：青木 安弘

会計：武 繁春

会計監査：松田美代子

// : 渡辺貞之助

連絡所：大田 和

幹事：宮下 孝介

// : 内海 広重

// : 林 哲也

// : 河内 輝明

幹事：鈴木 彰典

// : 八木 幸市

// : 市川 英夫

// : 富田 金彦

// : 大龍恵津子

以上、15名のメンバーで幹事会を構成し毎月1回例会を開きながら、活動を進めることと決められた。

当面の活動方針として、次のようなことが論議された。

○国鉄尾瀬号の廃止に関する件

○尾瀬に向かう観光バスに自然保護を訴えるテープを備えつけさせる件

○夜行バスに関するアンケート

○自然観察会の日程

などが中心議題として討議され、それぞれ担当者を決めて、具体的な作業を進めることになった。（青木）

尾瀬の自然を守る会 会計報告

収入

前期繰越し金	154,913
会費	502,195
カシパ	140,373
雑収入	10,866
銀行利息	714
合計	809,061

昭和49年1月1日～昭和51年3月31日

支出

通信費	215,790
印刷費	190,370
交通費	69,130
使用料	53,350
消耗品代	17,670
備品代	12,000
謝礼	5,600
資料費	3410
雑費	3,110
合計	570,430

次年度繰越し金 238,631

（会計、武 繁春）

昭和51年4月16日

会計監査役 渡辺貞之助 印

同上 松田美代子 印

上記の通り、相違ありません。

いまわしき尾瀬

= 最近つくづく疑問に思うことを手当りしたいに =

自然保護のあいだでタブーになっている言葉、それは、「君はなぜ自然をまもる（わざと漢字は使わない、へたに使うとそこに思想が表われてしまうから）かい？」と質問すること。これでは自然保護運動は全然進歩しないだろうなあ。日本人的発想の悪いところ、それは、ただ黙々と無言ではたらいている人を見ると、その人はリッパな人だと位置づけてしまうことだ。そんなことでその人の評価が決つてしまつたら大変なことだ。頭がないから、もっとハッキリ言えば、バカだから頭の代りに体を使つてゐるだけだらう。もし、そのような人をリッパな人とするならば口先だけの人もリッパな人にしなければいけない。そんなバカな話はない。この議論はちょうど、一昔前にはやつた評論家どものメシの種、教師は聖職者か労働者か、というのと同じである。はじめから筋のない思いつき論議、あるいは、これを押しつける方にとつては、極めて緻密に演出された支配論理にすぎない。

ところで、先程の質問、「君はなぜ自然をまもるのかい？」と、もし僕が問われたら、こう答える、「あらゆる時に、あらゆる場所で、自由に採集したいから」と。多分反論者は多いだらう。特に我会員は自然保護団体会員だ、猛然と「採集反対！」と叫ぶだらう。では、再度言葉を換えて質問しよう。「一体何のために自然をまもるのかい」ある人はこう答えるだらう。「自然は人間の心のふるさとで……」とかの自然保護憲章とかいう浪節のように。開いた口が閉がらない。確かに森の中にいると心がなごむ、しかし、現代人の多くはターザンではない。無人の自然環境で暮せる人は少ない、つまり少数派、現代社会では少数派は異端者、犯罪者、精神異常者

として社会の方から除外される。除外されてよろこんでいる人は本物、そうでない人は人間社会に未練のある人間万能主義者、中間的であると自負している人は自己をつきつめて考えたことのないオクビヨウ者。まあ大体本物に属する人なんてそう多くはない。我が会員は全部本物ですか？

自然にまもろうと立ち上つた、まあどう考へてもブルジョアと呼べない人々は好きだ。皆いい人ばかりだ。だからこそよけいにキッイ事を言いたい。もう一度考へて欲しい。「なにゆえ自分は自然をまもるのか？」と。冗談としてよく言う言葉に、もし自然保護関係法規の中で、個人に対する規制が一般企業にも適用されたとしたら「人滅びて山河のみ残る」という事態になるであろう。もちろん現実にはそうなつてはいない。企業に対する規制は無きに等しいから。それに対して個人に対する規制はきびしい。例えば、八ヶ岳、南アルプス周辺は、今盛んに車道がつくられてゐる。しかもその多くは河川沿いである。そして、その河川はクモマツマキチヨウという非常に美しいチヨウの生息地である。車道工事で河川がうめられる。クモマツマキチヨウが絶滅に頻している。ところが、もし我々が採集にでも行こうものなら緑の腕章をつけた金でやとわれた暴力団まがいのオッサンがすっとんできてガタガタ文句を言う。アホか。ギフチヨウが少くなってきた。それは採集者のせいだという。一体日本の生態学者は何をやっているんだ。車道工事の設計家になり下つてしまつて。伐採につぐ伐採でカンアオイがかれてしまつた結果、少くなつただけだらう。その責任まで採集者に帰せようといふのか。一番楽なキャンペーンである。因果

関係が歴然としている。標本として証拠を残すのだから、彼らがあんなに沢山探ったのだから絶滅したのだと。ミッドウェー海戦時の母艦を失った戦闘機のように、食草を失ったチョウ達はどんな気持で人間を見ているだろうか。適正密度にまで間引いてくれる採集者と、車道工事と称して食草を伐りたおす企業のどちらを鬼と見るだろうか。

日本の保護行政の中でどうしても不可解で、どう考えてもアホのなせる業としか思えないものに、希少種の保護がある。カモシカ、シカ、サル、ウスバキチョウ……。こんなものがいるためにどんなに多くの人が泣いているだろう。しつこく今一度問い合わせよう。

「一体何のための、誰のための自然保護なのか」一心太助じゃないけれども、なまじっか皿なんかがあるから人々が苦しむんだ。こう考えると現代の支配者階級も、その支配構造は基本的には江戸時代と同じなんだなあ。支配者も進歩していない。それにも増して進歩していないのは、「庶民」なんだなあ。皿なんかぶっこわしちまえ。いなくなりやいなくなるであきらめもつくし、そこから展望も生れるというものだろう。もし残しておきたいという者がいるなら、大事な税金をあずかる国などにお願いなんかしないで、自分達で金を出して、しかるべき所にしかるべき土地を買って、自分達で管理して、たまに出かけて

行ってニヤニヤしながらながめていればいいでしょう。それもやらんで、いかにも当然のような顔をして「守れ、守れ」は少々ムシがよすぎるんじゃないですか。企業がにくけりや自分が社長さんになって、無破壊企業宣言でも出したらどうですか。多分三日で倒産すると思いますが。

別に自暴自棄で言っているのではない。残すのも結構。しかし、貯金じゃないけど、ただ貯めるだけじゃ意味がないでしょう。もっと利用し活用することを考えなくちゃ。一部の人々は見ることを活用という。またある人は探ることを活用という。両方とも正しい。人それぞれ、自分にあった方法で活用する。それでいいんだ。その方法に沿って人それぞれに「何のために」が生きてくる。決して自分の方だけが正しいのではない。他人の方法も正しい。すべて正しい。大自然の中でのびのびと活動できる人、すべて自然保護者だろう。口先でガタガタとわかったようなことを言う前に、大自然の中でのびのびと走りましょう。特別保護地区なんてクリくらえ!!

P.S. 反論が当然あると思う。と同時に賛同者もいると信ずる。いずれにしてもよく考えて欲しい。やみくもに「守れ、守れ」という時代は過ぎた。頭脳で勝負しよう。

=MOMO=

環境庁へ抗議電報を打つ

さる6月28日、小沢環境庁長官は西沢長野県知事に対して、ビーナスライン美か原線の工事再開を認める決意をした。

現地視察をしていながらこの決定を下す小沢長官の頭の中には、自然保護の理念などかけらもないことを示すものだ。田中角栄前首相の尻尾につかまって汚れた金をつ

かんだと言われている長官の最後の悪あがきかもしれない。

会では、長官、自然保護局長、宇野参事会、計画課長の四者に宛てて、抗議の電報を送った。本四架橋許可に続くこの暴挙を許すわけにはいかない。

群馬県知事は再び自民党に決まった。革新必ずしも信頼できないが、自民は最も看護の必要な横暴政党である。群馬県人よ、ごまかされるなかれ!!

國立国会図書館蔵書

- 尾瀬関係資料一覧 5 1.4.1 9 現在
(和漢書件名目録 4. Oyon より)
- (凡例)
- | | | |
|-------------|---|---|
| 分類番号 | 著者(編者) | 福島県教育庁社会教育課 |
| 著者番号 | 書名 | 昭和 47 23P 図 26cm |
| 5 1 7.8 1 | 群馬県 知事公室企画室 | 内容: 尾瀬の保護と復元 3. |
| G 9 5 0 | <u>尾瀬ヶ原地帯を水源とする地域</u>
<u>の電力開発に関する研究</u>
群馬県知事公室企画室編
40P 図版地図 5 枚 昭和 25 | 調査主体: 尾瀬保護指導委員会
K 1 2 1 同上
4 9 <u>同報告書 41 集</u> |
| 4 2 7.1 3 3 | 群馬県 知事公室企画室 | 65P 図 26cm |
| G 9 5 0 | <u>尾瀬地方の生物と移植について</u>
<u>の研究(植物の部)</u>
群馬県知事公室企画室編
77P 図版 22 地図 27cm
昭和 26 | 内容: 尾瀬の保護と復元 4
(吉岡邦二等)
K 1 2 1 同上報告書 50 集
4 9 13P 26cm 1975 |
| M 7 4 | 群馬県教育委員会 | 内容: 尾瀬の保護と復元 6
(蜂谷剛等)
K 1 2 1 同上報告書 51 集
4 9 127P 図共 26cm
昭和 50 |
| 5 0 | <u>特別天然記念物尾瀬文化財調査</u>
<u>報告書第 5</u>
群馬県教育委員会文化財保護課
79P 朝日新刷工業 昭和 48.
はるかな尾瀬 | 内容: 尾瀬湿原植生の復元研究
291.3 3 布施正直(1937-)
H 8 6 9 0 尾瀬の四季 |
| G C 5 4 | 朝日新聞前橋支局編
東京 実業の日本社 昭和 50.
201P 22cm | 大阪 保育社 昭 43(68)
153P 図版共 15cm カラー
ブックス
29.1.2 6 川崎隆章(1903-) |
| 2 9 1.3 3 | 平野長英 | Ka 9 2 4 a 会津の山々, 尾瀬 川崎隆章編
修道社 昭和 36
391P 図版地図 23cm |
| H 5 1 1 0 | <u>尾瀬</u> 平野長英, 川崎隆章共著
福村書店 昭和 28
542P 図版 4 枚地図 19cm | 291.3 3 川崎隆章
Ka 9 2 4 0 尾瀬と日光 |
| 2 9 1.3 3 | 平野長英(1903-) | 山と溪谷社 昭和 28(53)
196P 図共表 19cm
(登山地図帳) |
| H 5 1 1 0 | <u>尾瀬の四季</u>
山と溪谷社 昭和 30
157P 18cm(山溪新書) | 291.3 3 川崎隆章
Ka 9 2 4 n 美しき尾瀬の旅 |
| R A 1 4 5 | 堀正一
14 <u>尾瀬の湿原をさぐる そのおい</u>
<u>たちと植物</u>
築地書房 1973
213P 18cm | 山と溪谷社 昭和 36
222P 図版 16cm
(山溪文庫第 1) |
| K 1 2 1 | 福島教育委員会
4 9 <u>福島県文化財調査報告書 34 集</u> | KC 7 2 6 小久保善吉(1910-)
5 尾瀬 小久保善吉写真集
実業之日本社 昭和 44
図版 58 枚 30cm |

R A 2 5 5	宮脇昭(1928-)	2 9 1.3 3	田辺和雄
7 7	<u>尾瀬ヶ原の植生</u>	T a 6 9 2 0	尾瀬 田辺和雄等徳(注)
	<u>尾瀬ヶ原湿原植物の生態学的研究</u> 宮脇昭, 藤原一絵著)		朋文堂 昭和28
	東京 国立公園協会昭45(70)	1 1 6 P (図版共) 地図 1 9 cm	(マウンテンガイドシリーズ
	1 5 2 P 図共 2 7 cm		第3)
	文献 P 1 4 9 ~ 1 5 2		(注) I 平野長英 II 中西悟堂
	付表 6 3 枚	2 9 1.3 3	山と渓谷社
	付図: 尾瀬ヶ原湿原中田代十字路附近現存植生図	Y 4 5 9 0	<u>カラー尾瀬</u> 山と渓谷社 昭和42
	調査者: 宮脇昭, 藤原一絵		1 9 8 P (図版共) 地図 1 9 cm (山渓カラーガイド)
	品田穂		[参考資料]
	1 : 1 0 0 1 1 0 × 1 4 2 cm	3 8 2.1 3 3	群馬県教育委員会
	おりたたみ 2 6 cm	G 9 5 K	<u>片品の民俗</u> 群馬県教育委員会事務局昭35
	尾瀬ヶ原湿原植生図		1 6 2 P 図版地図 2 6 cm
	調査者: 宮脇昭, 藤原一絵	2 1 3.3	片品村(群馬県利根郡)
	1 : 1 0,0 0 0 5 5 × 7 9 cm	K a 5 8 2 K	<u>片品村史</u> 片品村史編纂委員会編
	おりたたみ 2 6 cm		7 0 2 P 図版地図 2 7 cm 昭38
	尾瀬ヶ原の代償植生図	G C 3 7	檜枝岐村(福島県南会津郡)
	調査者: 宮脇昭, 藤原一絵	2 0	<u>檜枝岐村史</u> 檜枝岐村 昭和45
	1 : 1 0,0 0 0 2 枚		4 8 2 P 図 2 0 枚 2 6 cm
	5 6 × 8 cm おりたたみ 2 6 cm		文献及び年集
	付図付表共箱入	3 8 2.1 2 6	今野円輔
2 9 1.3 3	西丸震哉(1923-)	K 0 6 3 3 h	<u>檜枝岐村民俗誌</u> —福島県南会津郡檜枝岐村—
N 7 9 8 0	<u>尾瀬と南会津</u> 奥鬼怒, 奥利根		1 6 7 P 1 9 cm
	実業の日本社 昭和36		民俗学研究所編 全国民俗誌叢書
	1 6 4 (図共) 1 8 cm		国会図書館は地下鉄有楽町線(池袋-銀座一丁目)永田町駅下車徒歩3分, 利用は20才以上の成人, 朝9時~夕5時, 日祭日休館平日利用しなければならないですが, この資料の中にあるいは重要な記事, 事柄があるかもしれませんので, 時間が都合できる方は是非閲覧下さい。(調べたのは林 哲也)
K C 7 2 6	白旗史朗(1933-)		
1 4 6	<u>尾瀬</u> 白旗史朗[撮影]		
	朝日新聞 1 9 7 4		
	図 1 5 P, 5 3 P 3 1 cm		
4 0 2.9	尾瀬ヶ原総合学術調査団		
0 9 9 1 0	<u>尾瀬ヶ原 尾瀬ヶ原総合学術調査団研究報告</u>		
	東京日本学術振興会 昭和29		
	8 4 1 P 図 1 4 枚 2 7 cm		
	附図: 尾瀬ヶ原及び近隣地域地質図		
	尾瀬ヶ原植物景観図		
	尾瀬ヶ原周辺森林植生図		
	尾瀬ヶ原湿原植生図		

「尾瀬の自然を守る会」会員名簿

敬称略，順不同（昭 51.7 月現在）

<u>都区内</u>	阿部久一	川畠博啓	星 壇	金田 平	京極 実	中島 和	三島千代子
藤代卓夫	水口昌司	志田啓子	小平昭彦	滝川道子	武 繁春		
栗股達雄	枝りつ子	中田喜直	矢野 亮	千葉 安達又雄	小林幸子	松田美代子	
中村順子	伊藤広之	太田 和	八木和主男	沼田 真	清宮厚子	小高一郎	小高正美
関 幸子	土橋進一	小川 潔	中島佐和子	茨城 油原ゆう子	太田庸夫	海老原進武	
牧野正吉	大竹長久	岡田益巳	中野くに子	栃木 浜中葉子	針谷道雄	渡辺貞之助	
堀 順仁	堀川晴弘	中村重雄	利根川峰子	佐藤長弘			
大野正雄	曾根広子	吉田量一	塚本福治郎	埼玉 宮林広吉	浦野輝夫	辻田甚兵衛	
林 友也	小島春一	木村慶一	吉野虎右門	小川とし 大金美保	山本裕子	佐川大作	
高木順子	岩沢俊夫	遠藤久次	中村君子	遠山久子 浜田順子	佐藤良春	茂木拡栄	
小田島護	原田 泉	松永道雄	竜造寺直子	群馬 佐藤 普	岩瀬一夫	川浦三四郎	
光沢正男	矢沢勝之	滝沢裕美	日高信六郎	狩野京子 中沢 寛	飯島長寿	村上泰賢	
中村健二	川崎隆章	中島省三	泉 浩二	吉田宰治 長岡庸夫	国安俊夫	加藤綜一	
西丸震哉	中田定良	内山重三	毎日版大橋	熊川利男 平野紀子	山本智正	川浦つね	
山本幹男	岡部和代	鈴木 清	国友義久	飯塚忠志 前女山岳部	茂木秀隆		
寺島昭彦	大石武一	鈴木彰典	鈴木憲太郎	中部 黒川洋平	原 伊市	辻内猛貫	
藤尾節子	大沼正雄	河内輝明	飯塚節男	黒田安太郎 伊藤和子	三品和子	村長利根郎	
五十嵐謙	中村 晃	上田浩二	梶 文彥	京阪神 田代保雄	小林邦薫	松田きよ子	
野田東子	石島芳郎	寺沢 孝	関下俊夫	山本 実 祖上シヅ	山本利行	荒田美午子	
青木安弘	懸谷寿一	熊谷瑞枝	和田規矩男	白鶴酒造 富田健一	川畠啓一	宇野卯之助	
和田 亮	江間章子	福永 栄	大滝恵津子	小寺久子			
土屋きみ	岸 好人	富田全彦	市川英夫	四国九州 山脇茂美	赤松雅枝	斎高 謙	
三浦隆夫	加藤禧重	宮本秀明	新藤政之助	善積 勇	善積 智	山口 聰	
丸山尚敏	太田正明	円山義紀	春日正三郎	北陸 今堀たか	中谷内慶子		
高村 敏	佐藤 清	西山和成	川村 実	新潟 島田卯八	倉沢新二	中野ふさ子	
谷川幸子	児玉芳郎	田中 博	等々力徹郎	阿部英正 西田 彰	西田はつ	猪俣信市	
石川庸子	菅田和男	山県 登	等々力英美	藤島 玄	藤田 久	遠藤典子	
穴田雪江	宮崎暁美			福島 水野 好	安島克久	安部井英一	
<u>都区外</u>	平井陵一	松崎寿子	八木幸一	箱崎紀雄			
吉田 薫	木内正敏	金田邦男	富永洋司	東北 松田和弘	坂本英夫	大河原幸雄	
小坂允子	小林 香	宇沢弘文	小原林治郎	北海道 長谷川泰二			
西村すか子	古後弘子	羽鳥明子	佐々木明雄				
青木温子	土屋道生	杉木 茂	細川幸勇				
小林正生	茅野公一	片山祥子					
<u>神奈川</u>	前田文弘	氏田初子	江里口容子				
大原裕子	太田嗣郎	宮下孝介	明大自保研				
速水幸二	丸島貞男	木村憲司	飯野とり子				
内海広重	林 哲也	渡辺敦子	小栗 彰				

いつも変わぬご協力ありがとうございます。
ご転居先不明等で通信がとだえております方
お通知願えればありがたいのですが、何とぞ
よろしくお願い致します。

例 会

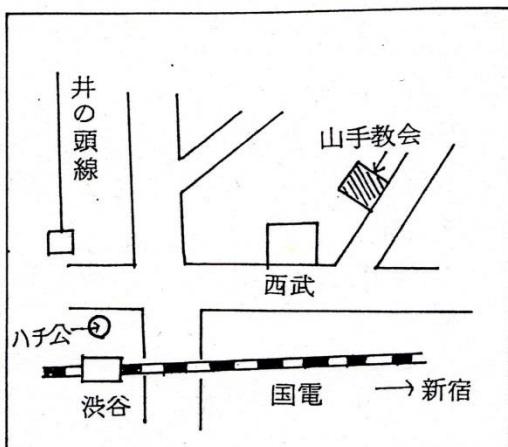
毎月第一金曜日に例会を催しております。
最新の情報を交換したり、一ヶ月間の活動報告をおこない、その月の行動計画を話し合っております。

- 時間に余裕のある方
 - 尾瀬及び全国の自然保護に興味のある方
 - 最新の情報をお持ちの方
- 是非おいでください。

記

時：毎月第一金曜日、夕方 6 時半より

所：東京渋谷山手教会内会議室（右図参照）



観察会のお知らせ

そろそろ人も少なくなった尾瀬へ、行きませんか。一流の解説陣がお伴します。

記

時 8月 16 日～18 日（2泊 3日）

集合 上野駅 8番線ホーム 6時 30 分

コース 上野→沼田→鳩待峠→山の鼻→
下田代十字路（泊）→裏 林道→
御池→沼山峠→尾瀬沼畔（泊）

申し込み先、及び問い合わせ先

100 新宿区西大久保 2-219

市川英夫 TEL 03-200-4308

編集後記

学校の先生には、一年間に 3 回ほど忙しい時があるが、この機関誌はいつもその忙しい時にぶつかっている。つまり休みの前だ。

ところで、巷はロッキー事件にあけくれもういい加減あきてきた。さらには 6 月下旬ビーナスライン許可などという事件がもち上ってきた。今さら何の目的で車道をつくろうっていう気なのだろうか。田中角栄かえり咲きを先取りして、またまた列島改造に着手でもしようというのだろうか。次号は、この辺の破壊行政の無方針性をスクープしてみたい。

尾瀬 第 9 号

発行者 尾瀬の自然を守る会

連絡先 〒108 港区三田1-11-45-108 大田和方

(03)451-2883 (郵便振替・東京 6-138023)

編集 河内輝明

〒154 世田谷区下馬3-38-14

(03)422-3466

一年間会費 1,000 円

